

特集 大和市と厚木基地

厚木基地の主な歴史と最近の動向

厚木基地は大和市の南西部と綾瀬市にまたがって所在し、国が維持管理する防衛施設です。航空基地である厚木基地は広大な面積を有しており(総面積約506㌔。うち大和市域約111㌔)、南北に延びる滑走路は本市側側にあり、その延長線上には本市の住宅密集地域が広がっていることから、市内では航空機の騒音被害が生じています。

厚木基地の主な歴史

●厚木基地の始まり

厚木基地の歴史は、1938年(昭和13年)に旧日本海軍が航空基地として定めたことから始まります。1945年(同20年)には終戦によりマッカーサー元帥が厚木基地に降り立ち、連合国軍を構成する米軍に接收されました。1950年(同25年)には米陸軍から米海軍に移管され、第7艦隊の後方支援基地として使用が開始されます。昭和30年代には、厚木基地を使用する米軍ジェット機の騒音が激化し、大きな社会問題となったことから、県や大和市などが国等に騒音軽減の要請をした結果、1963年(同38年)に日米両政府が「厚木飛行場周辺の航空機の騒音軽減措置」に合意し、飛行時間の規制(午後10時から翌午前6時まで全ての活動は原則禁止等)や飛行方法の規制(離着陸を除く人口過密地域上空の低空飛行禁止等)などが定められました。しかし、そうした中、1964年(同39年)には厚木基地を離陸した米軍ジェット機が上草柳の鉄工所に墜落し、工場関係者らの死傷者を出すという痛ましい事故が発生しています。

●海上自衛隊の移駐

1971年(同46年)には厚木基地の一部が海上自衛隊に移管され、海上自衛隊と米海軍との日米共同使用が開

始。その後、下総基地(千葉県)から海上自衛隊第4航空群等が厚木基地に移駐しました。

●空母艦載機による騒音被害の激化

1973年(同48年)に米空母ミッドウェイが横須賀に入港して以降、その艦載機が厚木基地へ飛来したことから、市内では騒音被害が一層深刻になります。1982年(同57年)には厚木基地で空母艦載機の夜間連続離着陸訓練(NLP)が開始され、その後も厚木基地でたびたびNLPが実施されました。そのような状況下、1988年(同63年)頃からは空母艦載機による展示飛行(デモンストレーションフライト)が基地開放日に実施されるようになり、市民に更なる騒音被害や墜落などの恐怖感を与えていたことから、本市では米海軍厚木航空施設との文化的交流の中断を公にしました。それを受け、2002年(平成14年)以降、米海軍は厚木基地でデモンストレーションフライトを実施していません。



デモンストレーションフライトのようす

●硫黄島代替訓練施設の提供

1993年(同5年)には、本市などの長年の取り組みにより、硫黄島代替

訓練施設が国から米側へ提供され、空母艦載機の着陸訓練はそのほとんどが硫黄島で実施されるようになります。天候などの事情により厚木基地で行われることもありましたが、1994年(同6年)には硫黄島における空母艦載機の着陸訓練支援等のため、厚木基地へ自衛隊ジェット機が乗り入れを開始しています。

●空母艦載機の移駐

在日米軍再編に伴い、2005年(同17年)に厚木基地の空母艦載機(固定翼機)の岩国基地(山口県)への移駐が国から示されます。2006年(同18年)の「再編実施のための日米のロードマップ」では、2014年(同26年)までに移駐が完了するとされましたが、移駐先の施設整備の遅れなどにより2017年(同29年)ようやく移駐が開始され、2018年(同30年)3月までに全ての空母艦載機(固定翼機)の移駐が完了しました。空母艦載機の移駐実現は、大和市基地対策協議会をはじめ関係機関、騒音被害に苦しむ市民等の長年にわたる騒音被害解消への取り組みの成果であり、厚木基地周辺では甚大な騒音被害が大幅に減少しています。



空母艦載機が岩国基地へ移駐

厚木基地の最近の動向について

厚木基地では、2013年(平成25年)から、海上自衛隊P-3C哨戒機の後継機種としてP-1哨戒機(ジェット機)の配備が開始されました。

現在、厚木基地では海上自衛隊の哨戒機や米海軍の艦載ヘリコプターなどが運用され、時折飛来する米軍ジェット戦闘機の飛来も含め、市内では日常的に騒音被害が生じています。また、航空機の部品紛失事案の発生や、空母艦載機の硫黄島での着陸訓練実施の際には天候などの事情により厚木基地で着陸訓練が行われる可能性が残るなどの不安も解消されていません。

そうした中、近年、米陸軍などの一時的な展開訓練が実施されるなど、厚木基地の運用にも変化が見られます。

本市に厚木基地が所在することで、街づくりの支障や航空機の騒音被害、事故への不安などさまざまな課題が生じていることから、本市では引き続き厚木基地の運用を注視するとともに、基地に起因する諸問題の解決と市民負担の解消に向けた取り組みを進めていきます。



厚木基地に配備されたP-1哨戒機

●日米共同訓練に伴い普天間基地所属の航空機が厚木基地を使用

昨年12月4日から17日まで東北地方などで実施された陸上自衛隊と米海兵隊との共同訓練に伴い、沖縄県に所在する普天間基地所属のオスプレイとCH-53ヘリコプターが機体整備や給油のため厚木基地を使用しました。この使用について、本市では事前に国に対し、航空機の騒音対策や安全対策の徹底、米軍人の規律保持、新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底などを強く要請しました。12月1日から21日までの間、オスプレイ等の航空機が厚木基地を離着陸するようが見られました。

●新型コロナウイルス感染症に係る米海軍厚木航空施設司令官との情報交換

昨年末より新型コロナウイルス感染症が再拡大する中、今年1月7日、大木哲大和市長が綾瀬市長と共に米海軍厚木航空施設を訪問し、同施設司令官マニング・モンタネ大佐と新型コロナウイルス感染症の対応などについて情報交換しました。モンタネ大佐からは、基地内の感染拡大防止はもちろん基地周辺住民を守ることも責務であること、米軍人等の陽性者や濃厚接触者の基地内での厳格な隔離や基地内外でのマスク着用の徹底、集会人数の制限を実施していることなど、感染拡大防止策について説明がありました。大木市長は、ウイルスを国内に入れないこと

はもとより基地外へ出さないことも大変重要であり、更なる感染拡大防止への取り組みや3回目のワクチン接種推進、適時適切な情報提供、基地内で働く日本人従業員の感染拡大防止への配慮などを求めました。

岡市役所基地対策課基地対策係 ☎(260)5310 FAX(260)5316

大和市基地対策協議会が航空自衛隊C-2輸送機を視察

厚木基地に乗り入れている自衛隊ジェット機について、昨年12月、防衛省南関東防衛局から、硫黄島での空母艦載機着陸訓練(FCLP)支援等のために乗り入れている航空自衛隊C-1輸送機を新型のC-2輸送機へ機種更新し厚木基地への乗り入れを開始するとの情報提供がありました。これを受け、市民・議会・行政の代表者で構成される大和市基地対策協議会(会長:大木哲市長)では、同年12月24日、厚木基地に乗り入れたC-2輸送機の視察を行いました。

視察では、防衛省南関東防衛局山野徹局長からC-2輸送機の乗り入れ概要などについて説明を受け、機体の大きさを確認するとともに、離着陸時の騒音が厚木基地で運用されているP-1哨戒機と同程度であることなどを確認しました。大和市基地対策協議会では、引き続き厚木基地へ乗り入れる自衛隊ジェット機の飛来状況や市民生活への影響などを注視するとともに、厚木基地に起因する諸問題の解決と市民負担の解消に向けた取り組みを進めていきます。



機体を確認する大和市基地対策協議会委員



モンタネ大佐と情報交換する大木市長